

## 京都からのプレゼント

先日、他県のある保育園を訪問しました。  
紅葉が点在する美しい裏山をのぞむ、ゆったり広い園庭には  
手作り遊具をはじめ楠、けやき、楓などの木々や池。  
園舎内も木製のしつらえて、おもちゃは十分用意されています。

私たち京都の園長、保育士一行は5歳児の部屋にお邪魔しました。  
ちょうど午前の礼拝の時間でした。  
歌とお祈りの後、担任が皆の前で紹介してくれました。短い挨拶のあと  
「今日はね、京都からプレゼントもってきたのよ。喜んでくれるかな」と、  
大きな箱を床の上でひろげた途端、幼児室は歓声に包まれました。  
「わあー、ありがとう」「これ、たのしいね」「こうしたらおもしろいね」  
子どもたちは次から次と箱に手を伸ばし、思い思いに取り出して  
顔にあてたり、組み合わせたり、数えたり、床の上にひろげたり。  
中には、ほおずりをする子までいます。  
遊びがどんどん展開して、なかなか礼拝が終れないほど。

ここまで子どもたちを夢中にさせるプレゼント。  
いったい何だと思われませんか？ それは…  
私たちの保育園近くの公園や裏山で採集した  
落葉、どんぐり、小枝、木の実など、自然物。  
それがそんなにも？ 私も訪れる前はそう思っていました。  
しかし、福島県南相馬の園児たちには宝物だったのです。  
登園の道すがら、目の前に葉っぱはいくらでも落ちています。  
しかし、一度も拾い上げたことはありません。  
走って行って手に触れようとする瞬間、大人の目を確認する。  
顔を横にふる保護者。伸ばした手を引っ込める子ども。  
これを、生まれてからずっと繰り返してきました。

ようやく今、職員の努力で除染がすすみ園庭に毎日出られます。  
しかし、お散歩には行けません。  
少しなら外に出てよいのだけれど、園はまだ許可をためらっています。  
「せっかくの楽しいはずのお散歩で、それは触らない、そこに行かないと  
常に言い続けなければならない。  
そんなこと、子どもも大人も耐え切れません」。

礼拝が終わっても、愛しむように京都の葉っぱと触れあい続ける子どもたち。  
この笑顔がこんなにも貴重であるなんて。  
そう、それは本当に貴重なのです。

(つくし保育園園長 つだかずお)

<だいで教会より>

お待ちかね、クリスマスの礼拝とお祝い会が今年も開かれます。

12月24日(日)午前10:30～。詳細はチラシにて。